



岩波講座

「日本帝国」の学知

全8巻

【編集委員】

山本武利・田中耕司・杉山伸也・末廣昭
山室信一・岸本美緒・藤井省三・酒井哲哉

岩波書店



「帝国」としての近代日本。その世界認識の構造と学問編成の系譜を歴史的に省察し、新たな学知の可能性を問う。

第2巻

「帝国」の経済学

【編集】杉山伸也
慶應義塾大学
経済学部

19世紀半ばに輸入学問として導入された経済学は、「帝国」日本に対する期待を背景に、日本社会への適応可能性を模索しながら、理論的・実証的な成果をつみかさねてきた。この経済学の日本化の局面を、国際環境の変化と日本経済の連続性のダイナミズムのなかで検討し、近代日本における経済学の学知を問い直す。

序 国際環境の変化と日本の経済学 杉山伸也

経済立国日本の経済学——渋沢栄一とアジア 島田昌和(文京学院大学)

明治経済の再編成——日清戦後の経済構想 佐藤政則(麗澤大学)

経済法の整備——条約改正の政治経済学 小沢隆司(札幌学院大学)

金解禁論争——井上準之助と世界経済 杉山伸也

「日本資本主義論争」——制度と構造 中林真幸
の発見 (大阪大学)

「帝国」の技術者——供給・移動・
技能形成 沢井実
(大阪大学)

「大東亜共栄圏」——経済統制と企業 正田康行
(立教大学)

戦後復興の経済学

——植民地喪失後の日本経済—— 中村隆英
(東京大学名誉教授)

付録 文献解題

岸田真・坂口誠十各章執筆



東京帝国大学を臨幸する明治天皇(1912年)

第6巻

地域研究としてのアジア

【編集】末廣昭
東京大学社会科学
学研究所

戦前の日本では、外務省領事部、満鉄調査部、大学・旧高商などの機関や、学会、個人が、アジア地域について膨大な文献収集と実地調査を行った。こうした市場調査や慣行調査、経済計画調査などは、戦後日本のアジア研究と調査にいかなる影響を与えたのか。フィールド調査と地域研究の源流を探る。

序 他者理解としての「学知」と「調査」 末廣昭

アジア調査の系譜——満鉄調査部からアジア経済研究所へ 末廣昭

農業・農村調査の系譜 田島俊雄(東京大学)

柳田民俗学の東アジア的展開 鶴見太郎(早稲田大学)

日本占領期の社会調査と人類学の再編——民族学から
文化人類学へ 中生勝美(大阪市立大学)

調査統計の系譜——植民地における統計調査システム 佐藤正広(一橋大学)

近代日本の海外通商情報戦略と東南アジア 清水元(早稲田大学)

戦前・戦中期高等商業学校のアジア調査——中国調査を中心に 松重充浩(日本大学)

華僑・華人調査——日貨排斥、抗日運動、経済力調査 濱下武志(京都大学)

長期経済計画と産業開発 岡崎哲二(東京大学)

付録 調査項目、調査機関沿革表、文献解題

井村哲郎・早瀬晋三
十各章執筆